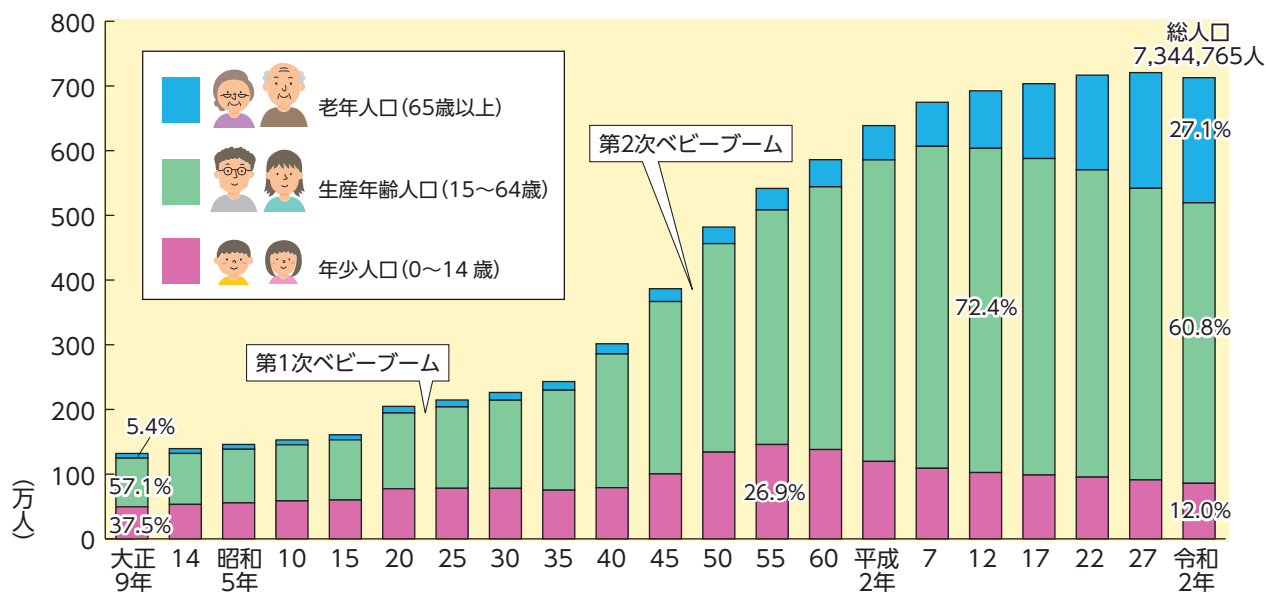


# ② 人口

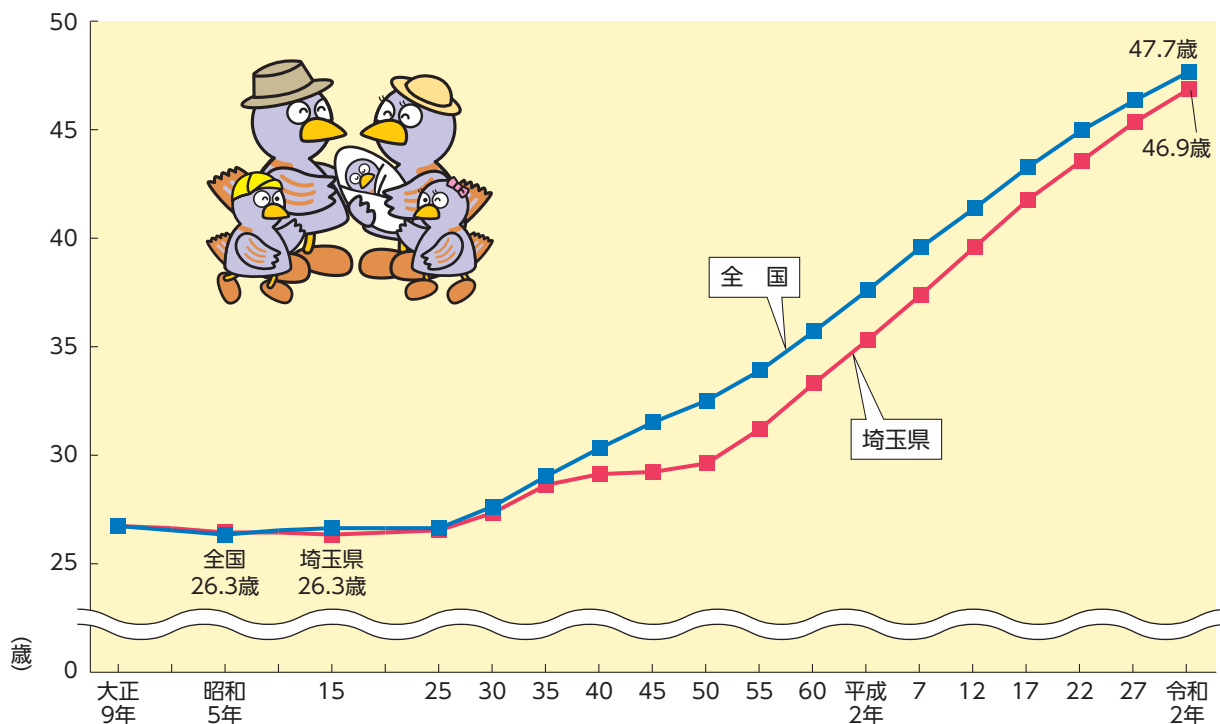
## ① 年齢3区分別人口の推移 (各年10月1日現在)



注) 1 昭和20年は11月1日現在で行われた人口調査結果による人口である。  
 2 人口の総数には年齢「不詳」を含む。  
 資料：総務省統計局HP「国勢調査」

令和2年の年齢3区分別人口は、年少人口(0~14歳)が858,384人、生産年齢人口(15~64歳)が4,335,188人、老年人口(65歳以上)が1,934,994人でした。老年人口割合は27.1%で、全国で6番目に低い割合となりました。

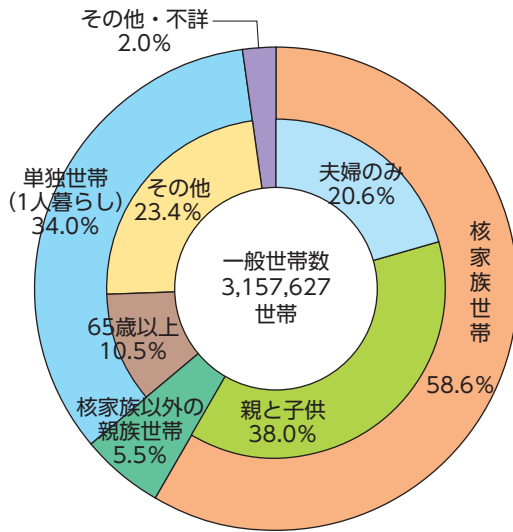
## ② 平均年齢の推移 (各年10月1日現在)



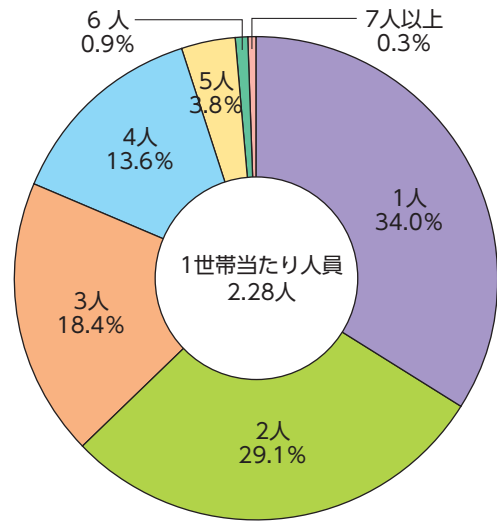
資料：総務省統計局HP「国勢調査」

埼玉県の平均年齢は46.9歳で、5年前の平成27年の調査と比べて1.5歳上昇しました。

### ③ 一般世帯の家族類型別の割合 (令和2年10月1日現在)



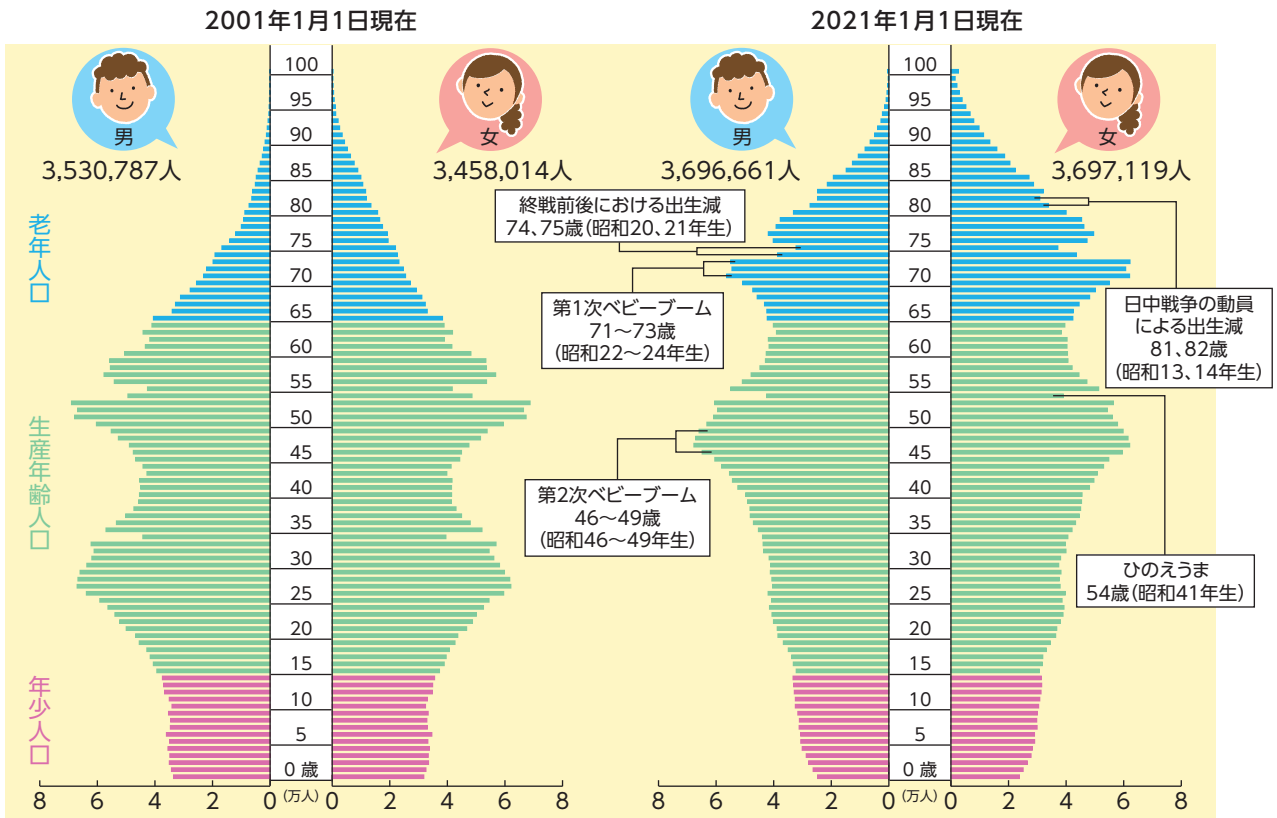
### ④ 一般世帯の世帯人員別の割合 (令和2年10月1日現在)



注) 一般世帯とは、寮や寄宿舎の学生、病院・療養所などの入院者、社会施設の入所者、自衛隊営舎内居住者などを除いた世帯をいう。  
資料：総務省統計局HP「国勢調査」

核家族世帯の数は、一般世帯全体の58.6%を占めています。この割合は全国第3位でした。高齢者が1人で住む世帯は、前回の国勢調査より57,186世帯(20.7%)増加して332,963世帯でした。高齢者が1人で住む世帯は、30年前の平成2年には、39,905世帯だったので、約29万世帯も増えたことになります。また、1世帯当たりの人数は、大正9年の第1回国勢調査では5.45人でしたが、令和2年には2.28人と2分の1以下の人数になっています。

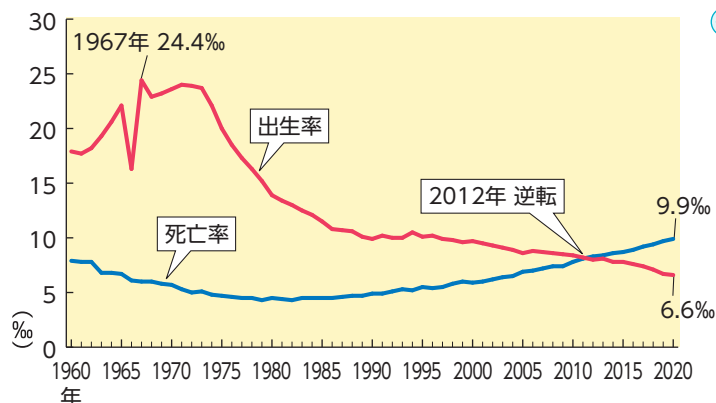
### ⑤ 人口ピラミッド



資料：県統計課HP「埼玉県町(丁)字別人口調査結果報告」

人口ピラミッドは、各時代の社会情勢を背景とする出生・死亡の状況を反映しています。2021年と20年前の2001年を比較してみると、29歳以下の年齢層は少なくなり、逆に65歳以上の年齢層は多くなっています。

## ⑥ 出生率と死亡率の推移

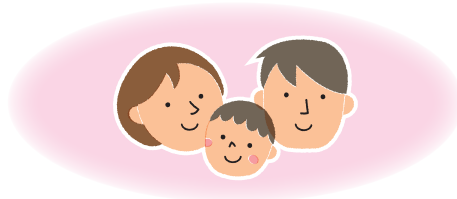


2020年の出生数は47,328人、死亡数は70,758人でした。

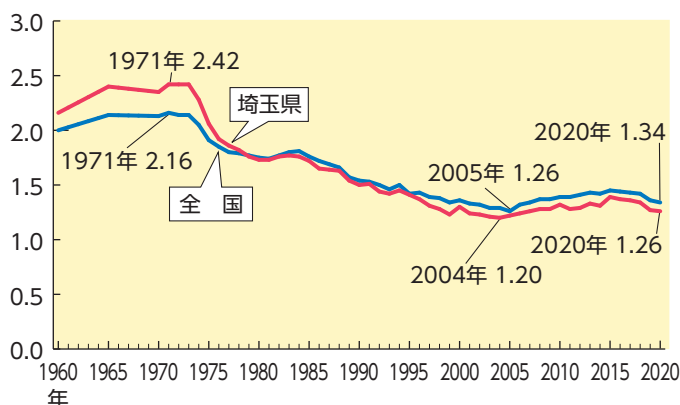
### 埼玉県の1日

出生数 129人、死亡数 193人

注) 出生(死亡)率とは、埼玉県における年間の出生(死亡)数  
がその年の10月1日現在の埼玉県における日本人人口  
1,000人に占める割合をいう。  
資料：厚生労働省HP「人口動態統計(確定数)の概況」、  
県保健医療政策課HP「埼玉県の人口動態概況(概数)」



## ⑦ 合計特殊出生率の推移



1人の女性が生む子供の数の目安となる合計特殊出生率の2020年の値は1.26でした。

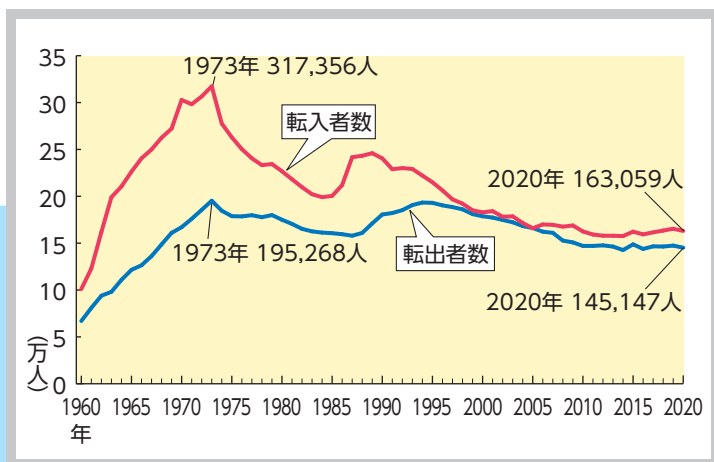
注) 合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が平均して一生の間に何人の子供を生むかを表している。  
資料：県保健医療政策課HP「埼玉県の合計特殊出生率」、  
埼玉県の人口動態概況(概数)」

## ⑧ 転入者数と転出者数の推移

2020年の本県への転入者数は163,059人、転出者数は145,147人でした。

### 埼玉県の1日

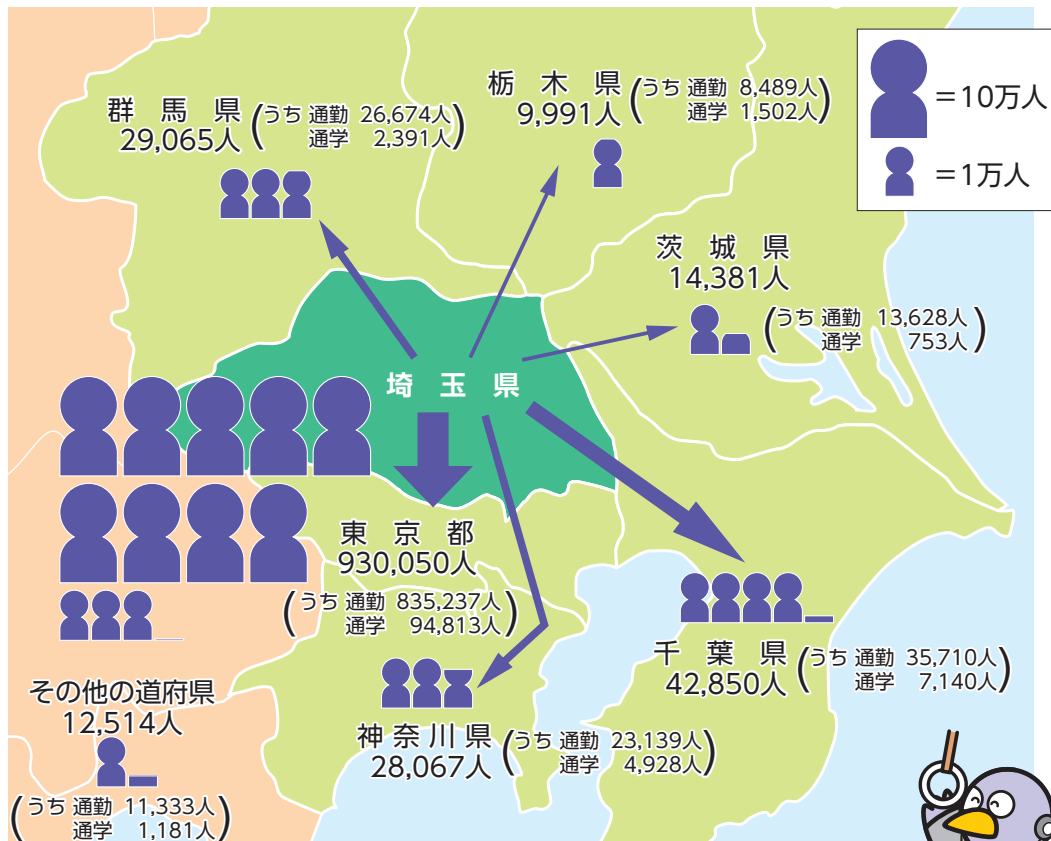
転入者数 446人、転出者数 397人



県の人口は現在、自然減(出生数<死亡数)の状態ですが、それを上回る社会増(転入者>転出者)により増加しています。

注) 転入者数とは、各年1年間に他都道府県から本県に住所を移した日本人の人数をいい、転出者数は、本県から他都道府県に住所を移した人数をいう。  
資料：総務省統計局HP「住民基本台帳人口移動報告年報」

### ⑨ 県外への通勤・通学者数 (平成27年10月1日現在)

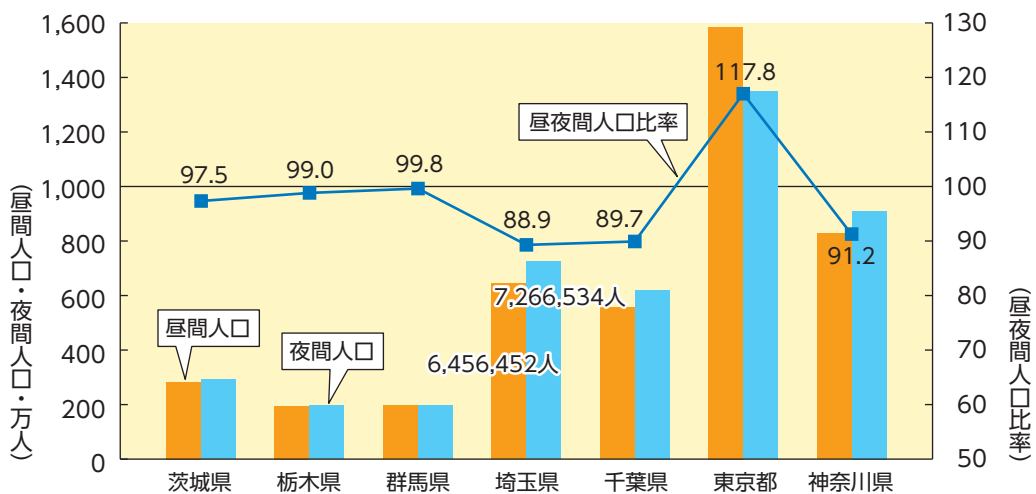


注) 15歳以上。  
資料：総務省統計局「国勢調査」



- ↑ 県外へ通勤・通学している人の数は、全国で2番目に多い1,066,918人です。このうち約87%の人が、東京都への通勤・通学者です。

### ⑩ 昼夜間人口と比率 (平成27年10月1日現在)



注) 1 昼夜間人口比率とは、常住人口(夜間人口)100人に対する昼間人口の割合をいう。  
2 常住人口(夜間人口)とは、調査時にふだん住んでいる場所における人口をいう。  
3 昼間人口とは、昼間活動している場所における人口のことで、常住人口から従業・通学(15歳未満通学者を含む。)による流出人口及び流入人口を加減した数をいう。  
資料：総務省統計局「国勢調査」

- ↑ 県外への通勤・通学者が多い本県の昼夜間人口比率(夜間人口100人に対する昼間人口の割合)は88.9で、全国で最も低い割合です。